

日銀神戸
支店長の
視点

山崎真人氏



このところ新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いています。感染症の影響が和らぐも、日常の回復が進み、ポストコロナへのステージの転化を期待しています。この間の需要の変化をどのようにとらえるべきでしょうか。

コロナ禍のもとでは、対面接触が回避され、デジタル化の重要性への意識が高まったように思います。すなわち、ビジネス出張の多くはオンライン会議で代替できることが認識されたほか、働き方改革もあってテレワークが市民権を得ました。行政手続きでも、従来は当たり前のように求められていた押印(ハンコ)が不要となり、ペーパーレス、オンライン化が進みはじめました。感染症がきっかけ

デジタル付加で新たな進化を

となつて、わが国の社会経済が内包していた課題の一端が浮き彫りとなり、効率化が進んだことは感染症の数少ないプラス効果かと思われま

す。デジタル化は当地でもさらなる進化が期待されます。主力の製造業では、これまで培ってきた「ものづくり」の技術力にデジタル要素を付加するかたちで、さまざまな取り組みが進んでいます。

自動運転を展望して走行中に路面情報や摩耗状況を教えてくれるタイヤ、自分の走り方を分析し、改善方法を指南してくれるシューズ、遠隔操作により執刀可能な手術用ロボットや匠の技で焼き上げてくれるお菓子づくりロボットなど、新しい製品・顧客サービスが実現しつつあります。こうした取り組みが、感染症からの回復途上にあるわが国経済の底上げのみならず、少子化・高齢化や地方の活性化といったわが国の課題解決にもつながっていくことを期待しています。